

1 学校教育目標	
○ 考える子      ○ 明るい子      ○ ねばり強い子	
2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像	
○学校像	○かけがえのない子どもたちのために、日々の教育活動に責任をもって取り組む学校 ○国・都・区の施策・動向を踏まえながら、当たり前のことを当たり前に行う学校 ○知・徳・体の調和のとれた児童の育成のために家庭・地域、近隣園・近隣校と連携・協働して共育し、共に育つ学校
○児童・生徒像	○考える子 …基本的な学習習慣の定着を図り、主体的な取組を通して基礎的・基本的な学習内容を習得するとともに、それを適切かつ積極的に活用することのできる児童 ○明るい子 …自他のよさや個性を認め、尊重するとともに、良心に基づいて行動し、互いに助け合うことのできる児童 ○ねばり強い子…自らの健康の増進と体力の向上について、目標を立て、達成のために努力する児童
○教師像	○進んで研鑽に励み、教師力を高めようとする教師 ○教育愛に満ち、児童・保護者・地域から信頼される教師 ○危機意識とスピード感をもって組織的に課題に対応できる教師
3 学校の現状及び前年度の成果と課題	
<p>1 学校の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和6年度は、1、2年1学級、3～6年2学級の全10学級の編成。2年続けて1学級減となった。児童数は、H28年度の420人から毎年減少傾向にありR6年度は235名（昨年比-29名）となる。</li> <li>・大規模修繕が令和3～5年度で実施された。令和4年度校庭の使用の制限が3ヶ月間あったが、昨年度の体力調査では、その影響を受けることはなかった。ただ、二極化、運動離れは、依然見られるので、体育的活動を工夫し、保持増進を図る。</li> <li>・担任、専科教員の学級・専科経営力を高め、児童の自己肯定感と学級への帰属意識を高める必要がある。（WEBQU調査より）</li> </ul> <p>2 成果と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学力の定着・向上に関しては、校内研究、校内年次研、小中連携、区小研による研究授業、そして日常の授業での授業改善を通し、学力を維持していくことが今後も課題となる。</li> <li>○「GIGAスクール構想」の実現により、児童の情報活用能力と指導者のICT活用能力が高まっている。情報教育リーダーによる、ICTブロック連絡会も機能し、各校と情報共有している。指導者は、Googleアプリを活用し、協働的な学びを実践している。</li> <li>○昨年度は、保護者・地域の皆様に学校の様子、子供たちの活動する姿を見ていただくことができた。学校だより、保健・給食・だよりなどの各種だよりや配信メール、特にHPでの積極的な情報発信に努めた。また、ICTの環境が整ったことにより、各種案内や連絡をHPに掲載することで、ペーパーレス化を進めたり、学級と児童・家庭をGoogleアプリ「classroom」やHome&amp;Schoolでつないだりすることもできた。保護者アンケートでは、「学校や児童の様子を参観したり、説明したりする機会を適切に設けている。」への肯定的な回答が90%をこえ、高い評価を得られたことがありがたい。（前年同様）「校外学習時のメール配信を楽しみにしています。」「HPで校長ブログ、今日の給食の記事が学校選択の決め手となりました。」などの意見もいただいた。引き続き、情報を発信し、開かれた学校、魅力ある北三谷小を目指していきたい。</li> <li>○保護者及び地域は、学校に協力的である。コロナ禍が収束し、地域の取組や行事が再開される中、保護者・地域がどれほどまでに子供たちの健全育成に力を尽くされているのかを再認識できた。学校創立70周年を迎える今年度、地域の教育資源を存分に生かしていきたい。</li> <li>・いじめ・いじわるの早期発見、早期解消を図ることができたものの、時間が経過すると、また新たな事案を発見するに至る。今後も、道徳教育を中心に日常的に人権教育を推進し、いじめ早期発見・解消100%を目指す。</li> </ul>	

#### 4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R4	R5	R6	R7	R8
1	学力向上アクションプラン	◎	◎	◎	◎	◎
2	豊かな心の育成	○	○	○	○	○
3	体力・運動能力の向上と健康の増進	○	○	○	○	○

#### 5 令和6年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン（学力の定着と向上）		
A 今年度の成果目標	達成基準 （目標通過率）	実施結果 （通過率結果）	コメント・課題	達成度 ◎○△●
児童が自身の向上を実感できる学力の定着と向上に向けた取組の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ R6 区学力調査通過率 5・6年生は区平均並み。2・3・4年生は区平均を上回る。</li> <li>・ 年度末の到達目標 単元テストの平均達成率 80%以上の児童の割合 80%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【区学力調査の通過率】</li> <li>・ 令和6年度 区学力調査 通過率 2教科平均 86.8%（昨年比－0.2ポイント）</li> <li>・ 国調査(6年)2教科平均正答率 64.4（国平均－2.8ポイント）</li> <li>・ 単元末診断テストの平均達成率 80%以上の児童の割合 国語 70% 社会 73% 算数 78% 理科 77%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【区学力調査の国語・算数の通過率】</li> <li>・ 4月実施...国語科 84.7% 算数科 88.9% 国語は区平均－2.7ポイント、算数は＋2.4ポイント。国語科は特に「話すこと・聞くこと」の正答率が9学級中7学級において区平均を下回った。メモを取りながら話を聞く機会（全校朝会を放送朝会に変更しメモを取る活動の実施）を設定したり、日常の授業や校内研でも学年の目標を常に意識して指導した。児童アンケート「相手が何を伝えたいのかを考えながら聞く。」「話す内容や理由や事実、考えなど順序を考えて話す。」などへの回答 88%。意識の高まりとともに単元ワークテスト達成率 80%以上の児童 68%。</li> <li>・ 2月年度末確認調査...国語 73% 算数 80%</li> <li>【単元テスト達成率 80%以上の児童の割合】</li> <li>・ 前年度に比べ、算数科と理科の達成率は上がったが、目標には達しなかった。国語科は4ポイント、社会科は3ポイント下がった。今後も以下の B 目標実現に向けた取組みを推進し、学習した単元の内容の定着と各教科における資質・能力の育成を図る。</li> </ul>	△

B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象・実施教科	頻度・実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
継続	ICT の活用	全学年 全教科	授業	<b>【指導体制】</b> 担任・学習支援員 <b>【取組の目的】</b> 足立区 ICT 教育推進基本方針に基づいた、分かりやすい授業と情報を活用した学びを推進し、「発達段階に応じて求められる情報活用能力」を身に付けさせる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>区の方針「情報活用能力」を基準に児童への調査(含む「キーボー島チャレンジ」)</li> <li>AI ドリル、ICT 活用状況の児童、教員への調査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ステップ 1～3 の学年に応じたスキル・モラル習得 80%</li> <li>「ICT を使うことで勉強が楽しく分かる」児童 80%</li> <li>AI ドリルの計画的な活用 解答数月 300 問</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ステップ 1～3 に応じたスキル・モラルの習得 100%</li> <li>タイピングスキル 校内基準達成児童 87% (昨年比-2)</li> <li>「ICT を使うことで勉強が楽しく分かる」と回答 87%</li> <li>AI ドリルの算数科適用問題での日常的な活用、ワークブックの家庭学習などにより平均解答数月平均 405 問 (12～2 月の平均)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「キーボー島」でのタイピングスキル向上。学年に応じた基準を設定し、6 年生は 88% の児童が達成した。(昨年比-8)</li> <li>スライド、フォーム、キャンバなどを駆使して、指導と学習の手段として、指導者・児童とも毎日積極的に活用している。</li> <li>AI ドリルの毎日の活用率 (DAU 率 39%) を上げることが課題である。</li> </ul>	◎
継続	かけ算九九チャレンジ	第 2 学年及び未習得児童算数	11 月以降年度末まで	<b>【指導体制】</b> 担任・校長 <b>【取組の目的】</b> かけ算九九の完全習得	<ul style="list-style-type: none"> <li>校長と担任の聞き取り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3 月までに全員合格</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>九九チャレンジ取組中 3 月現在 95% 合格</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>配慮を要する児童には、スモールステップでの合格を目指す。</li> </ul>	△
継続	音読・暗唱チャレンジの定着	第 1 学年 第 5 学年 国語	授業 業間 放課後	<b>【指導者体制】</b> 担任・校長 <b>【取組の目的】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>MIM-PM の実施 授業の中で特殊音節を指導し、定着を徹底する。</li> <li>「音読チャレンジ」(1 年) 「暗唱チャレンジ」(5 年) 語のまとまりや言葉の響きを重点にした音読、古典の暗唱。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>MIM-PM での 3rd ステージの児童の割合 (2 月)</li> <li>暗唱・音読チャレンジの成果 (10 月、2 月)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>MIM-PM での 3rd ステージの児童 10% 以下</li> <li>音読・暗唱チャレンジ全員達成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>MIM-PM(2 月)3rd ステージの児童 0% 2nd ステージ 8%</li> <li>音読・暗唱チャレンジ全員達成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3rd ステージは全員が達成できた。</li> <li>声の抑揚や強弱を工夫し、筆者の伝えたいことが聞き手により分かりかきやすくなる音読を目指す。</li> </ul>	◎

継続	授業改善による学習内容の確実な定着と考える力・表現する力の育成(主体的・対話的な学習の充実)	全児童 国語 社会 算数 理科	授業	<p>【指導者体制】 担任・算数習熟度別担当 学習支援員</p> <p>【取組の目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まとめや振り返りを児童の言葉で行う。算数は授業の終末に適用問題を行い、学習内容の定着を図る。</li> <li>・言語活動の工夫、ICTの積極的な活用、主体的・対話的な学習を通して、考える力・表現力を育成する。</li> <li>・校内研、小中連携による研究授業6回</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・区調査「主体的に取り組む態度」及び学校調査「学習の進め方」に関わる児童の取組状況</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・区(既習事項を活用して問題を工夫して解決するなど5項目)及び学校調査(分からないことは質問して解決する、答えだけでなく、考え方も確かめるなどの5項目)における児童の主体的に取り組む態度の前年度比アップ</li> <li>・単元テスト 社会・算数・理科の「思考・判断・表現」の観点80%以上の児童の割合80%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・区調査「主体的に取り組む態度」 平均72%(前年度比-4)「学習を振り返ることで理解が進んだ」73%(区+6)「様々な解き方を考える」54%(区-5)</li> <li>・「学習の進め方」への積極的な態度が身に付いていると回答した児童77%(前年比+3)一方、「分からないことは、すぐに調べる」は昨年比+17の71%となったが課題である。</li> <li>・区再調査通過率年度当初比+1.0%</li> <li>・単元末診断テスト「思考・判断・表現」の観点80%達成した児童の割合社会76%算数74%理科73%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「考えたことを積極的に相手に伝える」は、前年度より改善された。78%(+22)。授業観察や校内研(国語)では、語彙力を付け、言葉を豊かに表現する。自らの考えをもち、友達と話し合う。交流を通して、考えを広げ、様々な方法に取り組ませる。これらを研修し、研究の日常化を進めている。ICTを効果的に活用したり、学習形態を工夫したりして、今後も、自分の考えを発表する、相手の話を聞く、学習を振り返る活動を通して、考える力・表現する力の育成を図る。</li> </ul>	△
継続	中学校につながる確かな英語力の育成	第5、6学年児童 英語	授業	<p>【指導者体制】 担任・アドバイザー</p> <p>【取組の目的】</p> <p>中学校に向けて4技能をバランスよく確実に育む授業と個別支援の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まとめの到達度診断テスト(10月、2月)</li> <li>・区調査問題を活用した定着度確認(2月実施)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まとめの到達度診断テストで達成率80%の児童85%</li> <li>・区調査(2月)通過率85%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語講師によるスピーキング・リスニング調査Aレベル59%</li> <li>・区調査(2月)通過率76%</li> <li>・英検ESG「リーディング・リスニング」86%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語講師から児童の意欲的な学習態度に高い評価がでている。苦手と感じている児童には校長面接で中学校での英語に期待をもたせて進学させる。</li> </ul>	△

新規	放課後パワーアップ教室	全児童、個別指導を要する児童	放課後30分週4日	<p>【指導者体制】 担任・専科・学習支援員</p> <p>【取組の目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的・基本的な学習内容の定着</li> <li>・学習内容が定着していない児童への補充</li> <li>・既習内容のつまずきの克服と積み上げ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元テストでの学習内容定着度</li> <li>・区調査、未通過児童の再調査時の通過した割合</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国・社・算・理とも平均到達度80%以上の児童の割合80%</li> <li>・未通過の児童のうち再調査で通過する児童の割合50%。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元末診断テスト80%達成した児童の割合 国語70% (-4) 社会73% (-3) 算数78% (+1) 理科77% (+8)</li> <li>・未通過であった児童のうち30%が通過した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力調査で正答率の低い問題、領域の克服に向け、パワーアップタイムで取り組んでいる。放課後の取組のため、意欲が持続できるよう工夫して取り組む。</li> </ul>	△
----	-------------	----------------	-----------	---	---	--	---	---	---

<b>重点的な取組事項－2</b>	豊かな心の育成
-------------------	---------

A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
全ての児童の明るい学校生活の実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校（学級）は楽しい」「友達と仲よく協力し合っている」と感じている児童90%</li> <li>・目標実現に向けた取組み①～③の達成基準</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校（学級）は楽しい95% 友達と仲よく協力し合っている児童98%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者回答「児童は、仲よく楽しく学校生活を送っている」は95%保護者もそう感じていることがありがたい。全員が充実した学校生活と思えるよう今後も努めていく。</li> <li>・「友達のよいところを見つけている。」という良好な人間関係への回答も87%であった。</li> </ul>	○

B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度

<p>① いじめ・不登校の防止と早期解決</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめ・いじわる事案の年度内の解消。児童の悩みの相談相手が先生と回答 70%</li> <li>・「心の教育」への取組に関する保護者の肯定的な評価 90%</li> <li>・「WEBQU」調査 学校生活不満足群に属する児童の割合 20%以下</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「児童とともに」の徹底、「いじめ防止基本方針」に基づいた児童の自主的な取組の推進、「いじめ防止・SOSの出し方教室」の完全実施</li> <li>・豊かな人間関係づくりを目指した児童同士のよさを見付ける機会と場の設定</li> <li>・「いじめ対策プロジェクト」による学校・家庭・地域とのネットワーク強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の悩みの相談相手が先生と回答 79% (昨年比+12%)</li> <li>・「心の教育」への取組に関する保護者の肯定的な評価 96%</li> <li>・いじめの認知 14 件、内 9 件解決 (4~2 月)</li> <li>・「WEBQU」調査 学校生活不満足群に属する児童の割合第二回目 5% (第一回比-5)</li> <li>・「いじめ対策プロジェクト」の地域担当者と管理職で 2 回情報共有した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業間も教員は、教室や校庭で児童と共にある。悩みを訴えた児童のうちほぼ全員が担任へ相談している。結果を基に、該当学年・専科教員・SC と 2 回「WEBQU 会議」を開き、児童理解に役立てた。</li> </ul>	○
<p>② 自己肯定感の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己肯定感、自己有用感に関する児童の肯定的な評価 90%</li> <li>・体験的な学びの取組への保護者の肯定的な評価 85%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己肯定感が高まる機会や場の設定 体験的な学びの機会 (学年で年 2 回以上)、学校 2020 レガシーの推進、近隣幼稚園・保育園・高齢者福祉施設との交流など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己肯定感、自己有用感に関する児童の肯定的な評価 86% (前年比+7)</li> <li>・「体験的な学び」は、各学年 3 回以上実施した。その取組に関する保護者の肯定的な評価は 94%であった。</li> <li>・「人の役に立ちたい」と考えている児童は 96%。道徳授業地区公開講座「子供と大人の道徳講座」では、児童から「地域の一員として私達ができることは何か。」「地域のボランティアを知りたい。」との問いが生まれた。地域に目を向けるようになった。地域行事への参加率 65%。周年行事をよい機会に、全学年が地域の教育資源・人材を活用した活動に年 3 回以上取り組んだ。地域連携・体験的な学びには保護者から 97%の高評価を得た。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「自分のことが好き」73%の肯定的回答。自己肯定感、自己有用感を高めるために今後も自らの頑張りや成長を肯定的に自己・他己評価し、みんなのために活動し、役に立つ喜びを味わわせる機会を設定する。</li> <li>・隣接する高齢者施設への交流訪問も継続した。児童による合奏・合唱、なわとび運動を披露し、交流を行った。</li> <li>・「子供と大人の道徳講座」では、今後も保護者・地域といじめや差別、人との関わりなどについて考えていきたい。</li> </ul>	○

③ 基本的な生活習慣の定着	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「基本的な行動の仕方やきまりを身に付けさせるための取組」への保護者の肯定的な評価 90%</li> <li>・生活目標の達成率 70%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の活動や保護者・地域との連携を生かした「あいさつ運動」の実施、6年生を中心とした児童の自主的な取組の充実</li> <li>・児童による生活目標達成の自己評価</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6年生が自主的に行っていたあいさつ運動が全校に広まった。持ち回りで全校児童が実施できるよう、代表委員が提案した。</li> <li>・児童の生活目標達成の達成率 自分からあいさつする 90% ルールを守る 94%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者アンケート：児童のあいさつ・返事、ルール・マナーが身に付いているはともに87%である。課外や家庭での過ごし方、公園での遊び方（ゴミの散らかし）、交通ルールを守ること、SNSの正しい利活用は、今後も継続して家庭と共に指導していく。</li> </ul>	△
---------------	--	--	---	--	---

<b>重点的な取組事項－3</b>	体力・運動能力の向上と健康の増進
-------------------	------------------

A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
よりよい生活習慣の確立と運動の日常化、体力・運動能力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康な生活習慣の確立は、下記①②の達成基準</li> <li>・体力・運動能力の向上は、体力調査の「体力合計点」が都平均以上を、男女別で6学年以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体力運動能力調査にあたり、スポーツ推進委員を招き、投力向上の指導を受けた。投力調査は、男子1・2・5・6年、女子1・2・3・6年の計8学年が都平均を上回った。課題は敏捷性。反復横跳びは10の学年で平均を下回った。</li> <li>・体力合計点は下記②に記載</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童・保護者には、「早起き」で生活を整えるよう働きかけている。</li> <li>・②のように体力向上の取組には肯定的な評価をいただいたが、児童は進んで体力づくりに取り組んでいると考えている保護者は73%にとどまっている。今後も運動の日常化をめざす。</li> </ul>	△

B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果（昨年比）	コメント・課題	達成度

<p>① 健康でよりよい生活習慣の確立</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手洗いハンカチ 90% (感染症防止)</li> <li>・年間残菜率 2.5%以下</li> <li>・早起早寝 85%</li> <li>・歯みがき 90%</li> <li>・むし歯の保有者 10月の段階で5%以内 2月の段階で2%以内</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食育指導の徹底</li> <li>・養護教諭・栄養職員の専門性を生かした指導の実施</li> <li>・「むし歯ゼロ運動」の推進(家庭への働きかけ、学校保健委員会などとの連携)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・うがい手洗い、ハンカチ携帯の習慣が身に付いている児童 84% (+4%)</li> <li>・早起早寝 66% (同)</li> <li>・むし歯の治癒率 39.6% (-20%)</li> <li>・むし歯の保有者 19% (+7%)</li> <li>・残菜率 年間 1.8% (-0.5%)</li> <li>・20%以上の肥満傾向 11.2% (+0.2%)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・う歯治癒率が昨年度より低くなっている。学校保健委員会にて全校児童に向けて歯科校医よりむし歯予防、口腔衛生の重要性を伝えていただいた。今後も、児童、保護者に啓発を継続していく。</li> <li>・養護教諭の保健指導(正しい姿勢づくり)の取組が保健センターに評価された。</li> </ul>	<p>△</p>
<p>② 運動の日常化と体力・運動能力の向上(多様な運動の機会と体育授業の充実)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「体力向上への取組」に対する保護者の肯定的な評価 95%</li> <li>・「体を動かすことが楽しい・好き」と感じている児童 90%</li> <li>・体力・運動能力調査「体力合計点」が都平均以上を、男女別で6学年以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「体力向上推進計画」に基づく体力向上の継続的な取組</li> <li>・外遊びの励行</li> <li>・体力調査の結果をもとにした、「できる・伸びる・集う・精一杯動く」喜び楽しさを味わわせる授業改善</li> <li>・体力の向上と健康の保持増進を目指した「持久走・なわとび月間」への取組(「学校 2020 レガシー」)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者アンケート「学校の体力向上への取組」への肯定的な評価 97% (+8)</li> <li>・児童「体を動かすことが楽しい・好き」 85%</li> <li>・「短なわ・長なわチャレンジ」に全員が参加した。「長なわチャレンジ」は、2学級が区の基準を達成した。</li> <li>・教員の実技研修(年2回)</li> <li>・体力・運動能力調査「体力合計点」の都平均以上は、男子2・6年、女子1・2・3・6年の計6学年(-3学年)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長なわ・短なわとびチャレンジ月間、持久走月間の設定を今後も継続する。</li> <li>・体力・運動能力調査から昨年度課題となった現4学年について女子に改善が見られた。(筋力・持久力)引き続き4年男子は、日常の運動遊びから、特に敏捷性向上に取り組み、バランスのとれた体づくりを目指していく。</li> </ul>	<p>○</p>

## 6 まとめ

### (1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

#### ○重点的な取組事項1 学力アクションプランについて

4月当初の学力調査結果から、国語科「話すこと・聞くこと」への授業改善、日常の取組を行ってきた。メモを取りながら話の中心や伝えたいことを聞きとる指導を継続し、日常の授業や校内研でも学年の目標を常に意識して指導した。児童の「相手が何を伝えたいのかを考えながら聞く。」「話す内容や理由や事実、考えなど順序を考えて話す。」などへの意識も高まった。学力定着年度末確認調査でも、全学年の平均正答率が83%となった。(2月実施)

2月実施の学力定着年度末確認調査の通過率は、学校全体で国語科73.2%、算数科80.3%であった。3・5年生の国語科、3年生の算数科に課題がある。単元テストの結果の分析と合わせ、学習のつまずきをより明確にし、より個の課題に応じた指導に取り組んでいく。

#### 【課題1】

3年生国語科の通過率は69.5%、5年生は68.5%である。

・「説明的文章・資料の読み取り、書く」問題の平均正答率は31%である。要旨の把握、文の構成・段落相互の関係への理解度、条件や文字数の制限を

付けての記述の力が低いことが課題となる。

- ・他学年においても、文学的な文章では、行動や会話などを通して描かれている登場人物の気持ちの動きや性格を読み取ることが課題となる。
- ・語彙を増やすことも課題となる。

#### 【対策 1】

- ・資料（メモ、下書き、会話、話し合い原稿、記事、企画書）などから自分の考えを組み立てる力を育てる。日常の学習指導を通し、複数の資料を関連させて読み取る学習活動を設定し、自分の考えを表現する書き方を工夫させる。要点や内容に関する記述の際には、文字数を指定して書く力を向上させる。
- ・文学的な文章においては、文章を読み取る際に、登場人物の様子や心情を表す語に注目させて読ませるなど、学習に応じ視点を明確にし、人物の性格を表す行動や会話などの根拠を見付ける活動を多く取り入れる。また、パワーアップタイムの時間には、文章量が少ない教材を活用し、同様の活動に取り組み、習熟を図る。
- ・AI ドリルを活用し、熟語の読み方や意味、構成についても反復して取り組んでいく。既習の漢字の復習に加え、熟語や漢字を活用した文例などを書くことを通して、語彙を増やしていく。
- ・物語文を通して校内研究を行った。講師からも「まず基本は、文章をすらすら読めること。」とあった。1年生での「音読チャレンジ」をきっかけに、改めて全学年の音読の力を確認し、付けさせていく。

#### 【課題 2】

3年生算数科の通過率は、67.85%である。①数量の関係を加法や乗法の式に表し答えを求める、②問題場面から必要な情報を読み取り、立式し、筆算をして答えを求め、その理由を説明することが課題となる。この傾向は、全学年で見られる。問題場面から課題をイメージすることができない、式で表された場面を想像することができないため、自分の考えをもって表現することに課題がある。

#### 【対策 2】

- ・自力解決の場面では、絵や図で表す、言葉の式にする、数直線やテープ図などの活動を行い、課題をイメージできる活動を取り入れ、自分の考えをより分かりやすく説明できるように指導する。また、集団検討場面では、相違点、類似点を考えながら、聞く活動を意図的に取り入れ、より妥当な答えを求めるように指導する。また、習熟度別の学習指導を引き続き行い、個に応じた指導の充実を図る。
- ・ICT 機器を使って、問題がイメージできるように導入場面での工夫を行うことや、AI ドリルを活用して、繰り返し取り組ませ、基礎基本の定着を図る。

#### ○重点的な取組事項 2 豊かな心の育成

日常の学習や学校行事など学校生活の中での様々な活動を通し、自他のよさを見付け合い、認め合うことはもちろんのこと、幼稚園・保育園との交流、近隣の高齢者施設訪問を通して、「人の役に立つ」「人に必要とされる」喜びを味わわせ、自己肯定感や自己有用感を高める心の教育を行ってきた。また、地域学習、さつまいも体験、落語・生け花・投げ方・器械運動・音楽活動（リコーダー教室・弦楽四重奏鑑賞教室・箏体験教室・劇団四季観劇・きらきたくんコンサート公演・北三ジュニアバンド）・科学マジックショーなど本物、本者に触れる体験などの機会を設けて、豊かな心を育ててきた。開校70周年の記念式典での子供たちの姿、歌声にも最大限のお褒めの言葉をいただいた。

いじめ・いじわる、登校しぶりについては、校内特別委員会の組織を生かして、学校全体でその早期発見、対応、解消を目指す。SC や SSW などの外部機関を活用するとともに、地域の「いじめ対策プロジェクト」と連携し、その取組を推進していく。

#### ○重点的な取組事項 3 体力・運動能力の向上と健康の増進

「体を動かすことが楽しい・好き」と感じている児童、「学校の体力向上への取組」に対する保護者の肯定的な評価は、目標を達成できた。年間通した

なわとび運動への取組、持久走月間など体育的活動を継続してきた。持久走記録会は、保護者・地域の協力と理解を得て、東和の町を走り抜ける行事となっている。

「学校2020レガシー」を推進する中、近隣校のスポーツ推進委員の協力も得て、パラリンピック競技「ボッチャ」に全学年で取り組んだ。さらに、周年の一連の行事として、土曜日の午後、地域に参加を募り、総勢76名、17チームが参加して「ボッチャ大会」を開催した。今後もスポーツ志向の向上を図り、子供たち自身が「精一杯動く・できる・分かる・工夫する・伸びる・競い合う・集う・応援する・運営する」などの楽しみ、喜びを味わうようにする。区取組「足立区マイベストプログラム」を活用し、自らの体力向上と健康な生活に向け、「マイベスト」を目指し、達成できるよう体育学習・体育的活動を工夫し、推進していく。

## **(2) 保護者や地域へのメッセージ**

今年度も「学力の定着と向上」「豊かな心の育成」「体力・運動能力の向上と健康の増進」を学校経営の柱として、知・徳・体のバランスのとれた子供を目指してまいりました。東和、蒲原という地域に生きる子供たち、そして学校です。地域に誇る学校でなく、地域が誇る学校となるよう、そして、目指す児童の姿を実現させるために、学校・家庭・地域の三位一体となった共育に努めてまいりました。この東和の町は、多種多彩かつ健全育成を主眼に工夫された地域の取組や行事が開催されるため、その中で子供たちは学校での姿とまた別の顔を見せ、成長しています。保護者・地域の皆様の温かく、力強いご支援を来年度もどうぞよろしく願いいたします。

令和6年の年明け、能登半島を大地震が襲いました。私達の街にもいつ自然災害が猛威を振るってもおかしくはありません。安全・安心な学校づくりが、東和の町の安全・安心につながることを目指しています。北三谷小避難所運営会議、訓練を4回行いました。特に6月30日は、運営本部、防災士、PTA、教員、そして児童も参加した訓練とすることができました。児童も「共助」の役割を果たすことを意識することができました。保護者の皆様と共に児童の命と街を守り抜いていきたいと思っております。

## **(3) その他（学校教育活動全般について）**

開校70周年を絶好の機会に、例年の学校行事にくわえ、70周年を銘打ち、課外も含め、PTAと開かれた学校づくり協議会と共催し、新たな活動に取り組むことができました。その中でも「北三谷夜祭り」、「きらきたくんくんコンサート」、「記念式・夢ランタン」、「バースデー集会～バルーンリリース」、「ボッチャ大会」は、子供たちの活動、活躍する姿をご覧いただくとともに、保護者・地域の皆様と一緒に創り上げることができました。2月に開催した展覧会では、「家庭では気付かない、子供の創造性を感じることができました。「70周年に関連した作品が工夫されていて、東和のこれから、夢をもって自分の好きなことを見付ける未来が楽しみです。」などの感想をいただきました。

学校だより、学年だより、学級だより、保健だより、給食だよりや配信メール、HP、Home&SchoolといったSNSも活用し、積極的な情報発信に努めてきました。ありがたいことに、学校評価アンケートでは、「学校は教育活動をHPやHome&Schoolなどを通して、家庭や地域に分かりやすく伝えている。」への肯定的な回答が90%をこえ、高い評価をいただくことができました。ICTの環境が整ったことにより、各種連絡をHPに掲載することで、ペーパーレス化を進め、学級と児童、家庭をグーグルのアプリ「classroom」でつなぐことができました。保護者アンケートでも、「定期的に学校での様子を伝えていただき、親子共々安心して学校に通わすことができました。」「HPの記事を楽しみにしています。」などの意見をいただきました。引き続き、開かれた学校を目指してまいります。

来年度は足立区教育委員会より「GIGAスクール推進研究校」としてICTモデル校の指定を受けました。学力の向上や資質、能力の育成を目指し、ICT活用の研究を進めていきます。